



三春中学校だより

第 18 号

発行日 平成30年 7月13日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 FAX 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【県中体連陸上大会、堂々と参加！ ～学校代表、田村支部代表としてプライドをもって～】



7月4日(水)～6日(金)の3日間、いわき市陸上競技場において、30年度の福島県中体連陸上競技大会が開催され、本校よりも9名の生徒が参加しました。2日目、3日目は朝5:45出発ということでたいへんだったのですが、見送りの先生方に対しても爽やかな笑顔とあいさつを披露し、大会会場においても、学校代表として、田村支部代表として、堂々の参加態度でした。

遠方であり学校での行事もあったので、7月5日のみの応援となりましたが、見学できた競技への参加態度がひたむきであったのはもちろんですが、すばらしかったのがあいさつでした。さらにすばらしかったのは控え場所での過ごし方でした。雨模様だったので、屋根のあるスタンド部分を分け合いながら、きちんと過ごすことができていました。

上位大会に進んできた生徒の意識の高さを感じました。控え室、応援、そして、競技へのひたむきな取り組み、そんな代表選手たちの姿に、“心の豊かさ”を感じ、そうなるよう選手たちをきちんと指導してきた先生方にも感謝しつつ、大満足で会場を後にしました。

応援いただいた保護者のみなさん、ありがとうございました。

【生徒会主催『昼レク』開催！ ～たくさんのおみなさんが参加し、楽しく過ごしました。～】

7月11日(水)のお昼休みに、生徒会執行部が音頭をとり、『昼レク』を行いました。たくさんのおみなさんと先生方が集い、取り組んだ競技は、『王様ドッジビー』、何をどうするんだろうと楽しみにしていると、ドッジボールの代わりに登場したのは、ボールではなくフリスビー。フリスビーを投げてあたって人によってポイントが入るといったゲームでした。

ピンとこない人のために、まず、ステージ上で生徒会執行部が実技演示、それで、参加者はゲームについて理解。早速、男子と女子の2面に分かれてゲーム。執行部よりは、控えチームの控え場所の指示や対戦相手同士の整列・あいさつの指示、タイムキープ、実況中継による盛り上げ、試合結果の確認、試合後のあいさつ、次の試合チームの指示など、次から次へと、『昼レク』のスムーズな進行のための働きかけが続きました。

とても楽しかった。そして、それ以上に、リーダー育成に大いに効果的な『昼レク』となりました。



【プラスチックの特性やリサイクルについて学びました。～理科の学習の一環として～】

7月4日(水)・5日(木)の2日間にわたり、東京からお二人の講師の先生をお招きし、第1学年の理科学習の一環として、プラスチックを題材にしたリサイクルの学習をしました。

『一般社団法人 プラスチック循環利用協会』という団体に所属なさっている鈴木さん、富田さん

というお二人から、プラスチックの特性について学んだり、それをもとにした実験に取り組んだりしました。子どもたちにとって実験は驚きの連続であり、随所から、「おおー。」という驚きの声が上がっていました。

飲み物のプラスチックのストローを廃止したお店もあるやとニュースで耳にしました。文明が生み出し、便利さから広く使われているプラスチック、今はそれをやめるお店も出ている、そんな現実を目の当たりにして、『命の大切さ』『生命尊重』『命のかけがえのなさ』という教育の本質に迫るための学びを組み立てていかなければならないと強く感じました。



【研修報告『スマホ・SNS時代の望ましい意思決定・行動選択とは』】

先日の校長対象の研修会において、スマホやSNS時代を生きる子どもたちや我々大人の為すべきことについて示唆に富むご講演をいただきました。開放的な夏休みを事故なく過ごしてほしいと思いましたが、紙面にてご報告の機会をもたせていただきます。

『スマホ・SNS時代の望ましい意思決定・行動選択とは』

福島県教育センター主任実習講師 目黒朋子先生

- 1 自分の中に生まれた『問い』を大切に『触発型学び』へ
変化の著しいこれからの社会をしっかりと生きていくためには、内発的動機づけによる主体的な探究学習・活動を促進し、さまざまな事態に主体的に対応できる力を身につけていくことが大切である。
- 2 ネット依存（ゲーム障がい）は病気
ネット依存（ゲーム障がい）が国際疾病分類に加わり、医学的に証明可能な疾病として認定された。ゲーム障がいで病院を訪れた受診者の特徴としては、患者の半数は中・高生、一方で、小学生から40代までと患者の年齢層は拡大し、男女比は9：1、男性はゲーム、女性はSNSにはまっている傾向があるという状況である。このように、ネットを続ける（過剰使用、耐性がなくなる、現実逃避）ことは、社会生活や健康に悪影響を及ぼす。
人を人たらしめる思考や創造性を担うのは、脳の最高中枢『前頭前野』であり、対人コミュニケーションや手書きの文章作成の際には『前頭前野』が多いに働き、電話やテレビ会議、パソコン・スマホによる文章作成の際には『前頭前野』はほとんど働いていないという実験結果がある。
また、2時間以上『ながら勉強』をした人の成績と、30分静かな中で勉強した人の成績を比べると、30分、他の刺激なく勉強した方が成績は上位、全国学力調査の質問調査の中のネット使用時間とその生徒の正答率との相関を見ると、インターネットの使用時間と正答率には全くの反比例関係が見られ、ネット時間が長ければ長いほど、正答率は低くなっている。
だからこそ、限られた時間を自己管理できる『タイムマネジメント力』を育てたい。そのために、家庭において、①ネット使用開始年齢を遅らせ、端末の本人所有を避ける。②ネット使用時間を短くさせる。③計画的に使用させ、自己制御できるようになるよう、ネット使用ルールを作り守らせる。④のめり込みがちな性格や発達障がい傾向のある場合は使用を特に注意する。⑤ネット使用状況を記録し可視化すると共に、金銭面は必ず家族が確実に制御する。⑥生活のリズムを崩さないよう、寝る時間、起きる時間は特にきちんと守らせるなど、保護者がネット使用のお手本を示し、管理する。⑦部活・塾・趣味・家族交流を促進し、現実世界を豊かにする。⑧買い与える場合は法律で定められているとおり、フィルタリングを必ずかけ、家庭での使用ルールを作り守らせ、自らお手本を示す。
- 3 便利だけれど使い方を誤ればたいへんなことに
「IoT」（「もの」が「インターネット」とつながる）時代には、被害者の瞳に映った容疑者の姿から容疑者が逮捕されたり、ピースサインから指紋が盗撮されたりなど、知らないうちに情報が盗まれ、個人が特定され、犯罪にも使用されることもある。
私たちがすべきこと、それは、「パスワード管理」と「アップデートとウィルス対策」である。個人情報を守るため、破られないパスワードにしたり使い回しをしたりしないようにする。アップデートは病気にかからないための体作りであり、ウィルス対策は予防接種にあたる。「パスワード管理」と「アップデートとウィルス対策」こそ、今のネット時代で私たちがすべき大切なことである。
(紙面の都合で次号に続く。)

(前号からの続き)

4 SNSとAI（人工知能）の関係

“2045年問題”というものがある。これから27年後、コンピュータ技術が人類の知能を超え、究極の人工知能が登場し、『シンギュラリティ』（技術的特異点）をむかえるかもしれないというものだ。このままのスピードでAIが進化し続けると、AIが新たに自分より優秀なAIを作り出し、そのAIがさらに自分より優秀なAIをというふうに進化していき、2045年には、人類の知能を超えてしまうのではないかという問題である。2030年の日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替が可能になるという説もある。半分の労働者が職を失いかねないということだ。

ただ、AIの開発には多くのデータが必要で、いわゆる『ビッグデータ』は、AI開発に欠かせないものとなる。そこで目をつけたのが、SNSの活用で、無料で、さまざまなデータが閲覧でき、とても便利なSNSだが、プロフィール、写真、削除された人や写真、IPアドレス、閲覧したページなど、実は、それを利用している人のデータもすべて保存されていることも事実である。

人工知能『東ロボくん』の生みの親、新井紀子教授は、AIロボットを東大理Ⅲ類（東大医学部コース）に入れるというプロジェクトを通して、“現在のAIは検索による膨大な知識はあっても文章の読解力が致命的にない。AIは『意味』を理解できない。“知識に比べ幼稚な知性”という見解を示した。また、文章の読解力が致命的にないはずの東ロボくんが、大学入試センター試験の50万人いる全受験生の上位20%に入るというそこそこの成績を収めたことで、文章の読解力が致命的にない現在のAIよりも読解力が低い高校生が相当数いることも明らかになった。

5 私たちがAIに仕事を奪われない人間になるためには

『与えられたものを消費するだけの人間』になるか、『自ら創造できる人間』になるかというのが新井教授からの問いかけだった。そして、社会が求めているのは『創造』できる人間であるというメッセージもくれました。

AIが紹介してくれたレストランに行き、AIが並べた自分に合いそうな商品を購入するという一見すると便利そうな世の中だからこそ、『意味』を理解できる人間になること、それがAIによって不幸にならない唯一の道である。』とも述べている。

AIが欠かせない現実社会だからこそ、やがて来る未来を知り世界を知り、自分の『今』を決定する力こそ、AI社会で生きていく我々にとって大切な能力となっている。

6 インターネット利用者全員が身につけなければならないこと

お母さんは買い物に出かけ、赤ちゃんとお父さんが留守番をしているとき赤ちゃんが泣き出してしまった。泣き止まない赤ちゃんを前にお父さんは困ってしまい、お父さんはお母さんに電話した。お母さんは自分のスマホとお父さんのスマホを動画でつなぎ、自分のスマホに写る赤ちゃんに向かって赤ちゃんをあやす。それでも泣き止まない赤ちゃんを見て、お父さんはスマホを捨て、両手で抱き上げ、その胸に抱くと、赤ちゃんは満足そうに泣き止んだ。（タイのコマーシャル）

赤ちゃんの泣いている『意味』を考え、理解し、『今』自分のすべきことは、その赤ちゃんを抱っこしてあげることという行動を決定したお父さん。人の心の温かさ、ふれあうことでもたらされる安心感、人が人として生きていく上でとても大切なことである。

そして、現在のAI社会で生きていく以上は、『情報モラル』をしっかりと身につけていくことはとても大切なことである。『ゆりかごから墓場まで』という言葉は、イギリスの社会保障制度のスローガンですが、産まれたときからこの世を去るときまで、至る所、AIに囲まれている。人の命のかけがえのなさの自覚のもと、しっかりした情報モラルを身につけ、未来を予想し、自分（たち）の今を決定できる人間になっていこう。